

1. 科目名(単位数)	子どもと造形 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2147								
2. 授業担当教員	武本大志										
4. 授業形態	演習、講義	5. 開講学期	春期/秋期								
6. 履修条件・他科目との関係											
7. 講義概要	<p>本授業では、領域「表現」のなかの「造形」の指導に関する、乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。具体的には以下の事項について学ぶ。</p> <p>① 乳幼児の造形による表現の姿や、その発達を理解する。</p> <p>② 造形による様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、乳幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。</p>										
8. 学習目標	<p>1) 乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。</p> <p>2) 造形を生成する過程について理解している。</p> <p>3) 乳幼児の素朴な造形を通しての表現を見出し、受け止め、共感することができる。</p> <p>4) 様々な表現を感じる・みる・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。</p> <p>5) 身の回りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特徴を生かした表現ができる。</p> <p>6) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。</p> <p>7) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。</p> <p>8) 様々な造形による表現の基礎的な知識技能を生かし、乳幼児の表現活動に展開させることができる。</p>										
9. アサシメント(宿題)及びレポート課題	<p>i. 毎時の授業において制作する作品を提出課題とする。</p> <p>ii. 制作・鑑賞に関わるレポートの作成と発表を行う。</p> <p>iii. 自己の振り返りとして、授業における取り組みをスケッチブックにまとめることを課題とする。</p> <p>以上、詳細についてはオリエンテーションの際に説明する。</p>										
10. 教科書・参考書・教材	<p>教科書【参考書】 授業の進行に伴い適宜資料を配布する。その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介する。</p> <p>【教材】 制作道具・材料についてはオリエンテーション時に指示する。各自忘れずに準備をして授業に臨むこと。</p>										
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1.子どもの表現に寄り添った造形活動の在り方について考えを深め、実践的な力がついたか。</p> <p>2.子どもの造形表現の特色や、造形素材や題材化に関する知識が身につけられたか。</p> <p>3.子どもの豊かな造形活動を支える基礎的造形力、技能が身につけられたか。</p> <p>○評定の方法</p> <p>授業への取り組み、製作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1.授業への積極的参加</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> <tr> <td>2.日常の学習状況及び自己課題への取り組み</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> <tr> <td>3.製作や鑑賞活動の成果(課題等)</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> <tr> <td>4.作品発表、レポート等</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> </table>			1.授業への積極的参加	総合点の 30%	2.日常の学習状況及び自己課題への取り組み	総合点の 20%	3.製作や鑑賞活動の成果(課題等)	総合点の 30%	4.作品発表、レポート等	総合点の 20%
1.授業への積極的参加	総合点の 30%										
2.日常の学習状況及び自己課題への取り組み	総合点の 20%										
3.製作や鑑賞活動の成果(課題等)	総合点の 30%										
4.作品発表、レポート等	総合点の 20%										
12. 受講生へのメッセージ	<p>①指導者の資格を得るという自覚を持ち、積極的に授業に参加すること。</p> <p>②実技を主とした授業展開のため欠席すると授業についてこれられない可能性があります。やむを得ない理由がない限り休まないこと。</p> <p>③使用する道具や自分の作品を大切にすること。</p> <p>④多くの体験を積み、広い視野を持つこと。</p> <p>以上のことを意識し、自身のために有意義な時間にしてください。</p>										
13. オフィスアワー	授業前後の空き時間等(研究室の前に時間割表を掲示)										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	◇ オリエンテーション 授業に関する諸注意 子どもの造形表現への理解について	事前学習	これまでの造形体験を振り返り、発達段階による造形表現の違いについて考える。								
		事後学習	子どもの描いた絵画に関して、ディスカッションの前後における自身の考えをまとめる。								
第2回	造形に関わる素材の研究Ⅰ～粘土～粘土の種類と扱い方について	事前学習	自身のこれまでの粘土経験を振り返り、粘土の特性について考える。活動に適した服装を用意し、爪を切っておく。								
		事後学習	粘土の種類によるそれぞれの特性についてまとめ、活動に適した素材について考える。								
第3回	造形に関わる素材の研究Ⅰ～粘土～対象物の鑑賞と特徴を捉える	事前学習	自然物から得られる形態の特徴について身の回りにあるものを観察し、考察する。								
		事後学習	作画したデッサンを振り返り、形態の特徴を再確認する								
第4回	造形に関わる素材の研究Ⅰ～粘土～表現技法の習得	事前学習	形・量・面といった立体造形に関わる用語を意味を考え、次回の制作での完成をイメージする。								

		事後学習	作品の相互鑑賞をもとに、表現の違いについて考察しスケッチおブックにまとめる。
第5回	造形に関わる素材の研究Ⅱ～紙～紙による立体造形について	事前学習	紙の種類や特性について調べておく。
		事後学習	紙でできること、できないことをまとめ、その活用方法について考える。
第6回	造形に関わる素材の研究Ⅲ～ダンボール～ダンボールの特性と加工方法	事前学習	ダンボールを用意し折り目の向きや種類による加工方法について考える
		事後学習	制作のイメージを明確にする
第7回	造形に関わる素材の研究Ⅲ～ダンボール～制作	事前学習	作品完成に向けて必要な加工工程をまとめる
		事後学習	相互鑑賞から得られた表現の違いを考察し、スケッチブックにまとめる
第8回	子どもの造形表現への寄り添い（講義）	事前学習	子どもが描く絵と大人が描く絵の違いについて考えをまとめる。
		事後学習	発達段階ごとの描画の特徴をスケッチブックにまとめ、子どもの表現活動に寄り添うための声かけについて考える。
第9回	造形に関わる素材の研究Ⅳ～自然物～自然物の特徴を理解し作品制作を行う	事前学習	身の回りにある自然物の写真を取り、採集できるもの集めておく。
		事後学習	自然物から得られる「匂い」「肌触り」「印象」などをまとめる。
第10回	描画材の研究 鉛筆・色鉛筆	事前学習	鉛筆・色鉛筆のできる描画表現について調べ、その方法をまとめておく
		事後学習	色の濃淡や筆圧による表現の違いについてまとめる。
第11回	描画材の研究 クレヨン・パステル	事前学習	クレヨン・パステルのできる描画表現について調べ、まとめる。
		事後学習	描画材による表現の違いについてまとめ、活動ごとに適した描画愛について検討する。
第12回	共同制作による壁面装飾Ⅰ アイデア構想	事前学習	壁面総称にはどのようなものがあるか調べておく。
		事後学習	グループの制作計画に従って、必要となる材料を収集する。まとめた構想についてアイデアスケッチを描く。
第13回	共同制作による壁面装飾Ⅱ 制作	事前学習	必要となる材料を準備し、制作に向けてグループ内で役割を検討する。
		事後学習	仕上げていくイメージを持つ。作品のプレゼンテーションに向けてコンセプトをまとめる。
第14回	共同制作による壁面装飾Ⅲ 発表及び鑑賞	事前学習	作品のプレゼンテーションに向けてコンセプトをまとめる。発表の役割を決めておく。
		事後学習	相互に鑑賞を行ってみて、印象に残った作品やプレゼンテーションについて良かった点をまとめながら、考えたこと・感じたことをプリントに記す。作品をスケッチブックにまとめる。
第15回	造形表現と造形活動（講義） これまでの造形活動の振り返りとまとめ	事前学習	これまでに制作した作品をスケッチブックにまとめ、振り返りの準備を行う。
		事後学習	子どもの造形と表現への寄り添い方について考え、実践で活かせるようにまとめる。